

高尾我

中繩作戰ニ於テ獨混四四旅団

第三歩兵隊第三大隊史実資料

昭和三十三年三月二十五日

第三十二軍務整理部

2986

部隊經歷

昭和十九年六月二十九日

動員完結、富山丸遭難事件、合動員關係月日不詳、  
殘存者五百名、独混四旅團第一步兵隊

一八月十日  
一八月十八日  
西郡第十七部隊、独混四旅團第三步兵隊、動員完結  
西郡第十七部隊、山岳隊

一八月十八日  
一八月二十七日  
鹿兒島縣立第一中學校、於、時、機

一八月二十八日  
鹿兒島港、山、風、(大信丸)

一八月二十九日  
大信丸火災、島、尖、島、名瀬港、不時着港上陸、名瀨國民  
學校寄宿舎

一九月一日  
一九月二日  
名瀨港、山、港、(夏門丸)  
沖繩縣國頭郡、名瀨港着上陸

一九月四日  
一九月六日  
名瀨國民學校及第三中學校寄宿舎  
独混四旅團第一步兵隊及第二步兵隊、合隊、独混  
四旅團第一步兵隊、前、編、成、完、結

一九月十八日  
一十月二日  
伊江島飛行場、設定、特、種、作、業、從、事

一十月 七日 右大隊八左通、守備地區轉進

第一大隊 本部地區  
第二大隊 名護地區  
第三大隊 八重嶽地區

尾崎部隊 (第二大隊) 經歷

一十月七日

一十月十日

一十月十一日

一十月十六日

國頭郡安和國民學校駐屯  
沖繩本島空襲 (南西諸島空襲)  
八重嶽周邊一移動  
中頭郡具志川村一移動、爲、出、發途中恩納村  
一泊

一十月十八日

一十月十七日

一昭和二十二年二月一日

中頭郡具志川村到着、駐屯防備  
中頭郡越来村、島袋一移動  
島尻郡大里村、西原一南風原、嶺中一稻福移動  
防備一任ス。

一二月十三日

一二月 三日

一二月 六日

甲隊戰備發令  
戰鬥參加、爲、首里東方、嶽周邊、自集結  
待機

一五月八日

首里附近八歳斗ニ参加(澤成)一末吉(大名)一部  
隊独立第十五大隊ニ配属スル

一五月十日

首里東方大名一宮成ニ轉進山部隊ニ配属シ戦斗参加  
島尻郡真指不思ニ轉進山部隊配属

一五月十二日

独混四回旅團ニ復歸ス  
班第七八三部隊長指揮下入り具志頭地方高地ニ轉

一五月十三日

進戦斗参加  
島尻與座仲座ニ轉進戦斗参加

一五月十八日

大隊長以下殆ど全員斬之散行(相當)戦果ヲ獲  
得セシ戦死傷者續出残存者遊撃戦斗ニ

一五月二十七日

移行  
解散隊状態トナル

以上

戦況経過其一

自三月三十日  
至四月一日

昭和十年三月三十日

朝より突如南方上空方向より敵機大編隊現

出概七、八頃ヨリ空襲爆撃ヲ開始ス殊ニ海岸地帯及

海兵部隊ニ指向セシレ軍直令甲号戦備ヲ令大隊ハ即時

戦況配備ヲ完了セリ

三月三十一日

漆川南方系滿那霸西方海上ニ敵巡洋艦駆逐艦

等數十隻現出シ船砲村奥ヲ開始セリ

主村向ハ漆川前川カヤヤ知念附近ナリ

舟備止之内ニ艦隻ニ船砲村奥及爆撃ヲ受ケルニ至リ各

隊陣地ヲ補強シ予備陣地ヲ進陣地ニ構築シ全力ヲ傾

注セリ

三月三十一日

本日頃ヨリ漆川海一面及奥武島方面ニ於テ敵ハ陽動的

進軍ヲ實施スル態勢ヲ取リ

一〇〇〇噸級ハ北谷、桑原、中飛、行場方面ヨリ上陸ヲ

開始セリ其兵力約二、四ヶ師團ト推定スル

戦況経過

概要其ニ

要圖其ニ

八四月三日

當塔ニ警備備セシ海軍戦元部隊ハ尾崎部隊ハ指揮  
下入り戦斗スルヲ命令テ受ク

船舶部隊ヨリ尾崎部隊ノ指揮下入りシテ中隊

ハ第七中隊配備北區(嶺井附近)ニ連繫シ嶺井

西側附近ニ陣地ヲ配備セリ

大隊ニ大隊砲ヲ配備セシレ大隊砲陣地ヲ西ノ部

東端ニ陣地ヲ配備シ佐敷一福福方向ヲ敵

攻撃ヲ行ハシ射撃ヲ任セシム

八四月五日

第九中隊第一小隊ハ島尻ノ古里附近ニ陣地ヲ占領シ

敵空艇部隊ヲ攻撃シ命令ヲ受テ現地ニ出發ス

機関砲ヲ門ハ敵ハ中隊邊ニ方面ヨリスル上陸ニ當リ

舟艇ヲ射撃スルヲ任務ヲ有セシガ飛行機及戰車

ヲ射撃スルヲ陣地ヲ変更セリ

八四月十七日

第六中隊團西面ニ戦況不利ナル爲メ福福ニ在リシ

第八中隊(小隊大)ハ雨之森附近ニ進出シ第七中隊

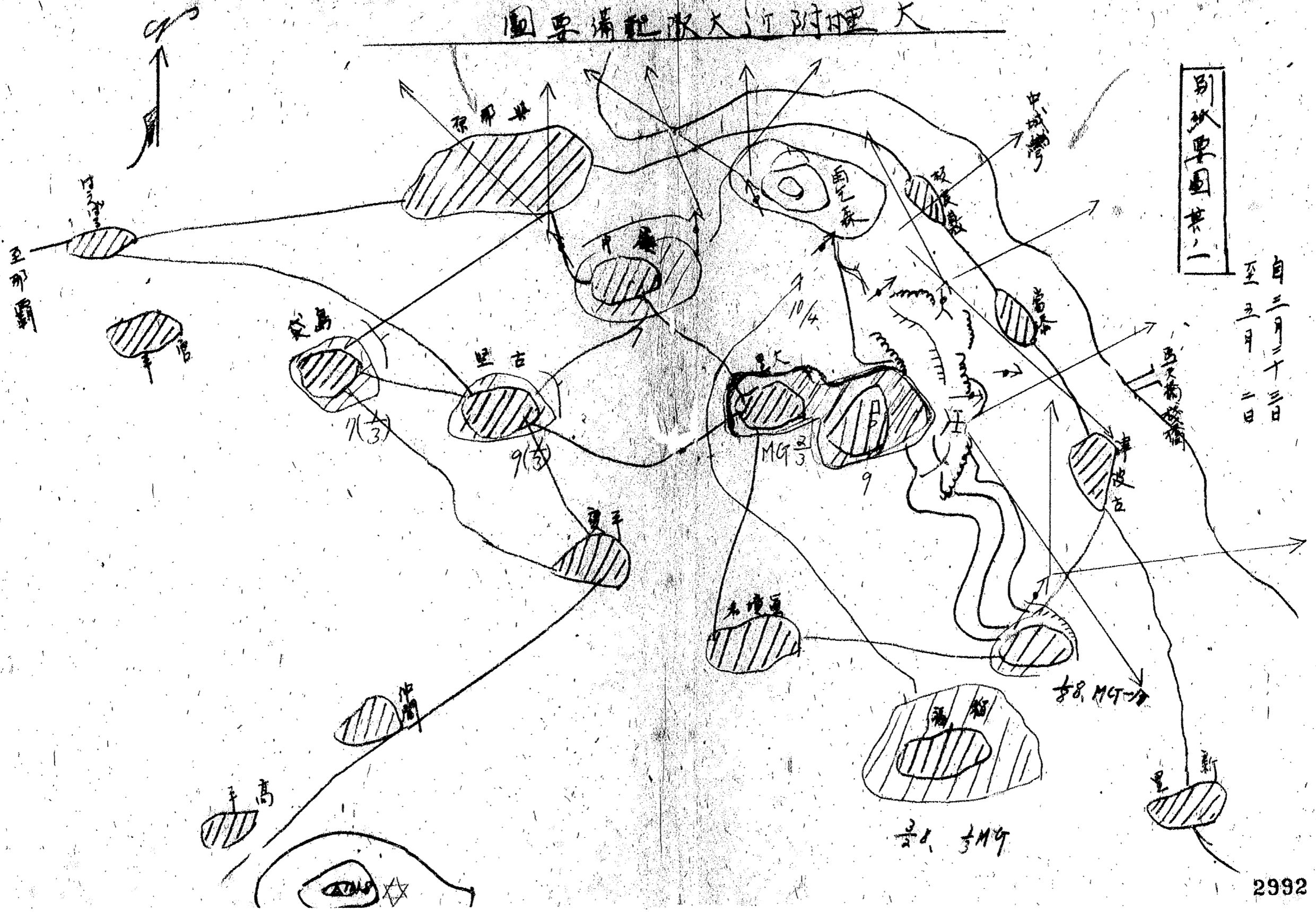
ト第九中隊ト戦斗地境中間ニ陣地ヲ配備シ昼夜

兼行ニ状態ニ于陣地ヲ構築セリ

大野附大河紀略要圖

別紙原圖其一

自三月二十三日  
至五月十一日





四月二十日

當日マア大隊ハ庫子備隊トテ警備地区内  
守備ニ任セラル。

才二歩兵隊才三大隊

三、戰鬥經過、結果

其、三 自五月三日  
至五月十九日 要圖其、二

五月二日

榑原、前田幸也、線ニアル二十四師團、戰況不利  
ナル狀況ニテ前線增加、命令受領シ首尾  
東方地區ニ左ノ通、集結待機ス。

大 名 第八中隊

首尾果劍橋梁附近 第七八中隊

大隊ハ六十四旅團獨立第七大隊既辰上ナリ

首尾西方末吉(才七中隊所)一山(才八中隊所)

一山(才九中隊所)一線、轉進命令ヲ受

領シ各中隊ハ集結地ニ出發、

敵ハ前田河波奈、線ヲ通過進仲西、隊ヲ引退

云々、一山、河波、津地、偵察、以範圍ナリ、

内湖ニ向テ敵約十隊位、兵力集結中ナリ

15.6.1946

五月二日



五月九日

五月一日

2994

2993



廿二步兵隊才三大隊

四月二十日

大坂八幡平傳狀一ノ一 皇軍備也臣河

等事、任之レタ。

東京 五月十七日 東國 共二

八五五二

御旨、前日、吉也、結集、ア、レ、千、四、百、圓、の、數、迄、ア、リ、  
七、七、狀、況、一、ノ、一、ノ、前、線、増、加、ノ、命、令、受、領、シ、首、尾、  
東、方、地、區、一、左、邊、ノ、事、務、結、核、ス、  
并、ノ、取、前、則、  
大、五、  
第、八、中、隊



首、尾、果、則、務、業、附、近、第、七、八、中、隊  
大、隊、八、十、四、隊、團、結、集、第、十、五、大、隊、既、居、上、リ、  
首、尾、四、方、不、透、(一、七、中、隊、附、一、山、腹、) 大、五、(一、八、中、隊、附、  
一、山、腹、) 第、七、中、隊、附、(一、山、腹、) 結、集、一、時、分、令、一、ノ、受、  
領、一、者、中、隊、八、中、隊、結、集、也、  
能、ハ、前、日、河、邊、皇、軍、結、集、進、出、作、用、ノ、強、ク、一、日、  
大、隊、一、日、河、邊、皇、軍、結、集、進、出、作、用、ノ、強、ク、一、日、  
大、隊、一、日、河、邊、皇、軍、結、集、進、出、作、用、ノ、強、ク、一、日、

五月十二日

五月十三日

五月十四日

敵三九師九中隊以下射撃隊ヲ編成シ右方  
中隊長指揮下ニ出立シるガ戦奮斗相着  
敵果テ攻多ク之ヲ斬テ於テ中隊長右方中隊  
第一小隊長全田乙平中尉ヲ第一小隊長山口俊  
少尉外下士官等ノ戦死傷者續々出シ中隊  
長決シ沈善太郎少尉八部下平善名ヲ  
率テ大隊本部ニ帰還ス。

七二八

敵ハ内湖方面ニ再ニ攻来シ来リ敵戦展開シ  
第一小隊長大桑茂男少尉ヲ士官第一小隊長  
時枝清臣少尉以下多ク戦死傷者續々  
出シ團野久入中隊長以下多ク戦死傷者續々  
澤城西北方高地ニテ大敵本部及其後援隊  
獨五早十五大隊陣地ニ面テ敵戦車四五輛ヲ  
シテ火焰放射及ビ戦車砲ヲ用テ猛攻シ  
相着シ損傷ヲ被リ本部傷ハ見全敵ニ  
来攻来リ受テ死傷者多シ。

8. 五月十五日

一〇〇〇噸三リ戰車六七輛大隊本部が十五時後  
陣地後方ニル澤成部塔内ニ進入して陣地ヲ  
猛攻シ始メ一〇〇噸三リ本部壊入入口ヲ離レシメ  
三八敵ノ機関銃陣地ヲ包圍シ夜間ト雖モ猛射  
スル状態トナレリ、三〇〇噸大隊ハ本音ニ轉進命  
令ヲ受テ前進接防護隊隊長本部附中島五六  
中尉下士室一兵八名ヲ編成シ本部陣地前  
ニ敵機関銃ヲ攻撃セシム本戦斗ニ於テ中島中  
尉以下七名ノ戦死傷者ヲ出セリ  
四〇〇噸大隊ハ本音ニ轉進セリ澤成一久安謝  
方向ヨリ追攻スル敵ヲ退攘スル目的ヲ以テ本音西  
北端ニ陣地ヲ既備ス、

10. 五月十六日

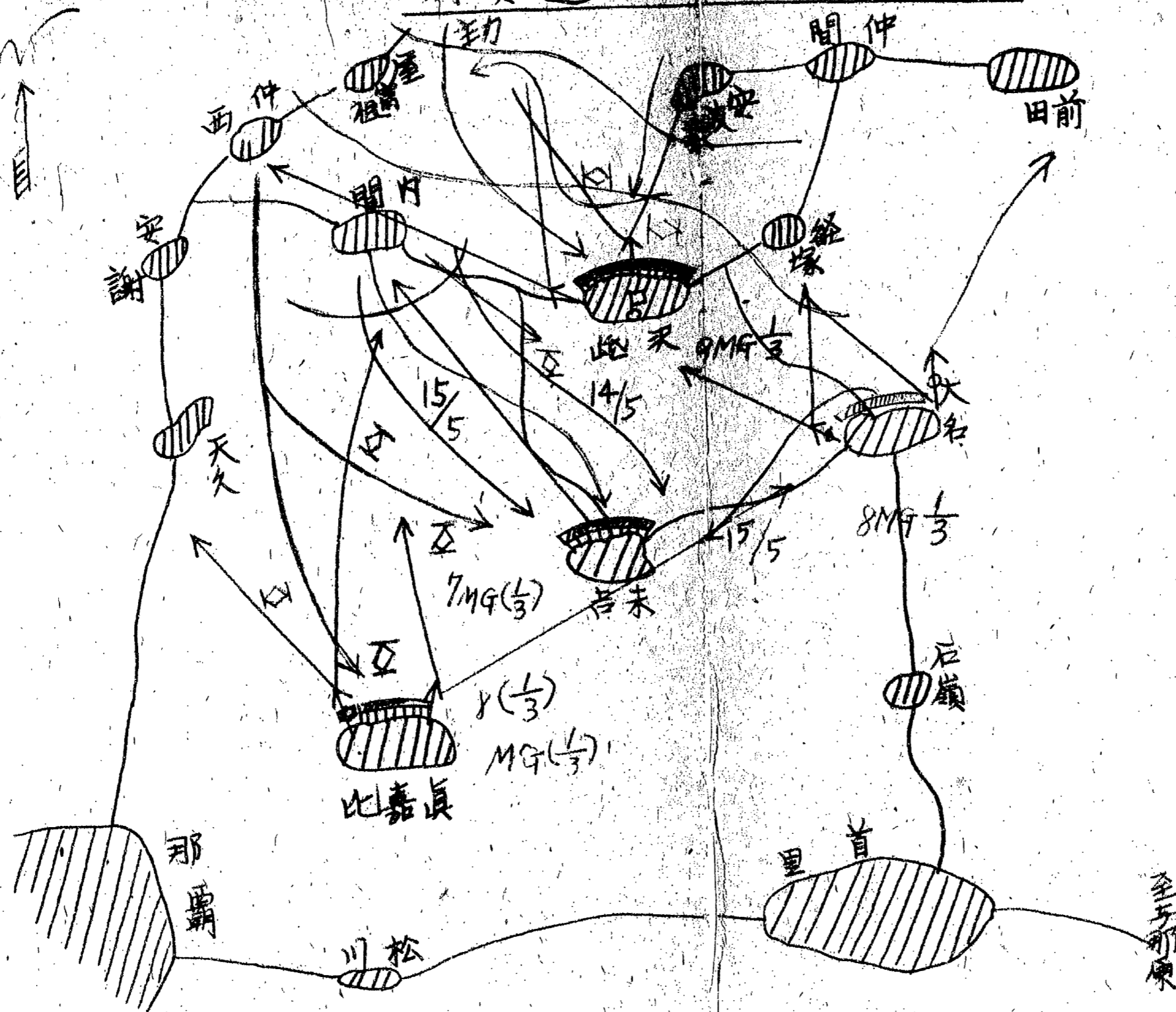
澤成一久一内間方向ヨリ熾烈ナル迫撃ヲ  
砲攻撃ヲ受テ  
又久一方向ヨリ攻撃スル敵ハ長成ニ(中)強務ヲ以テシテ  
中隊一組小隊(十隊長長森山實中尉)附一個  
小隊(小隊長若田國勝中尉)ヲ眞嘉比陣地  
ヲ占領セシム。

十二月十八日

敵の陣地を向より或は天久方向より漸次集り  
増加し以て攻要一別進し集り空陸より包圍  
攻を受し一より進み敵戦車五云斬り去る  
部落西端に進入戦車砲を以て撃つに放す  
而して一七の頃集結地に引揚がれり常より

2997

首里附近戰鬥經過要圖



別紙要圖其三  
自五月八日  
至五月十一日

13. 五月十九日

前夜急遽降雷ヲ才七中隊ヲ三小隊(小隊長境)置三  
郎中尉ハ未吉西南助四地ニ埋設戦車ニ兩ヲ掘生炎  
ニセシメタリ!

大勝全負必死ノ奮斗モ我ニ利非ハニニ。○首里  
東南方大名ニ勅命令ヲ受領シ二十日三。○到着  
即初大勝本部ヲ大名、才七中隊、才八中隊及3MG  
中隊ハ要圍其ノ三ノ配備ニ移行シ五。○頃配備ヲ  
完了シ敵ノ攻要前進ヲ阻止ス。

四 战斗経過概要其四 自五月二十日 要圍其ノ三四参照

1. 五月二十日 大勝正面ノ敵ノ攻要ハ至極緩慢ニシテ迫要砲射  
撃モ亦後援ニテ本朝战斗中ハ大勝ノ兵負損耗  
極メテ軽少ナリ。



之五月二十一日早八中勝一佃多勝ヲ以ツテ奥那霸方面ノ故ヲ對  
シ新上ヲ取行セシメ敵ニ多大ノ損害ヲアタヘリ。

五月二十四日大勝大里村ヲ座一ヲ座岳ノ嶺ニ取進命全ヲ復シ

二五〇 大名南側地区ニ集結ニテ兩出先シテ中ノ友等附近ニ  
テ野砲隊ヲ掩護場及ソノ附近ニ露臺シテ二十五日大里

村ヲ座到着一泊ノ上取進命全ヲウケテ糸満南方  
一志真栄里ニ到着山部隊ノ指揮下ニ屬シ糸満

國志方面ヲ進攻スル故ヲ懸念スベク真栄里新橋北方  
陣地ヲ既備シ猶真栄里西方海上糸満西方海上ヨリスル

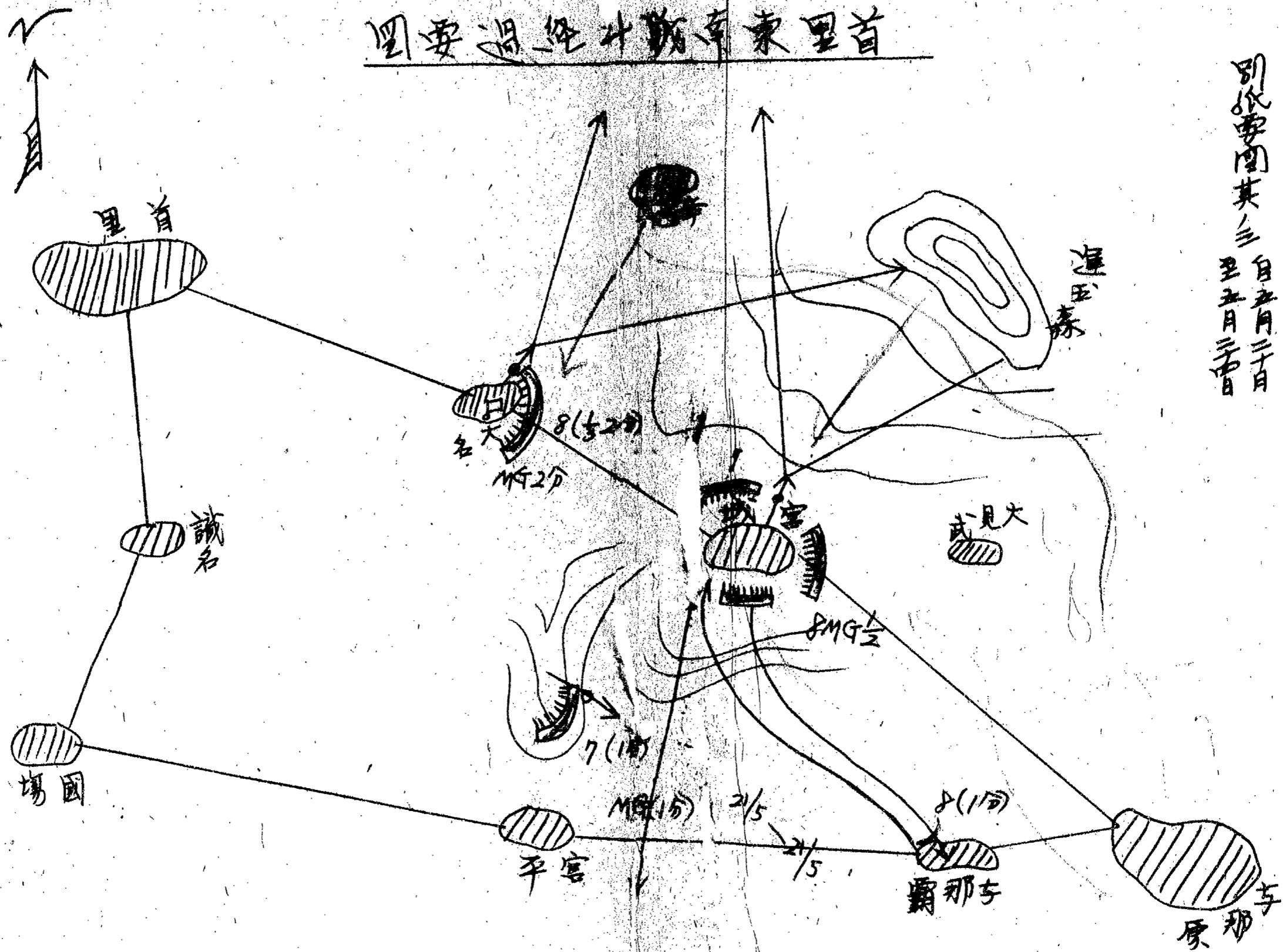
敵ノ上陸ヲ警戒スベク早八中勝ノ二佃多勝所ニ佃多勝  
ヲ真栄里西方高地ニ陣地ヲ既備セ云要國ソノ四條

真栄里西方海面及那霸西方海面ニハ巡洋艦數隻  
艦等數十隻ヲ遊シ真栄里新橋ノ後慢的ニ艦

砲射擊ヲ實施セリ。



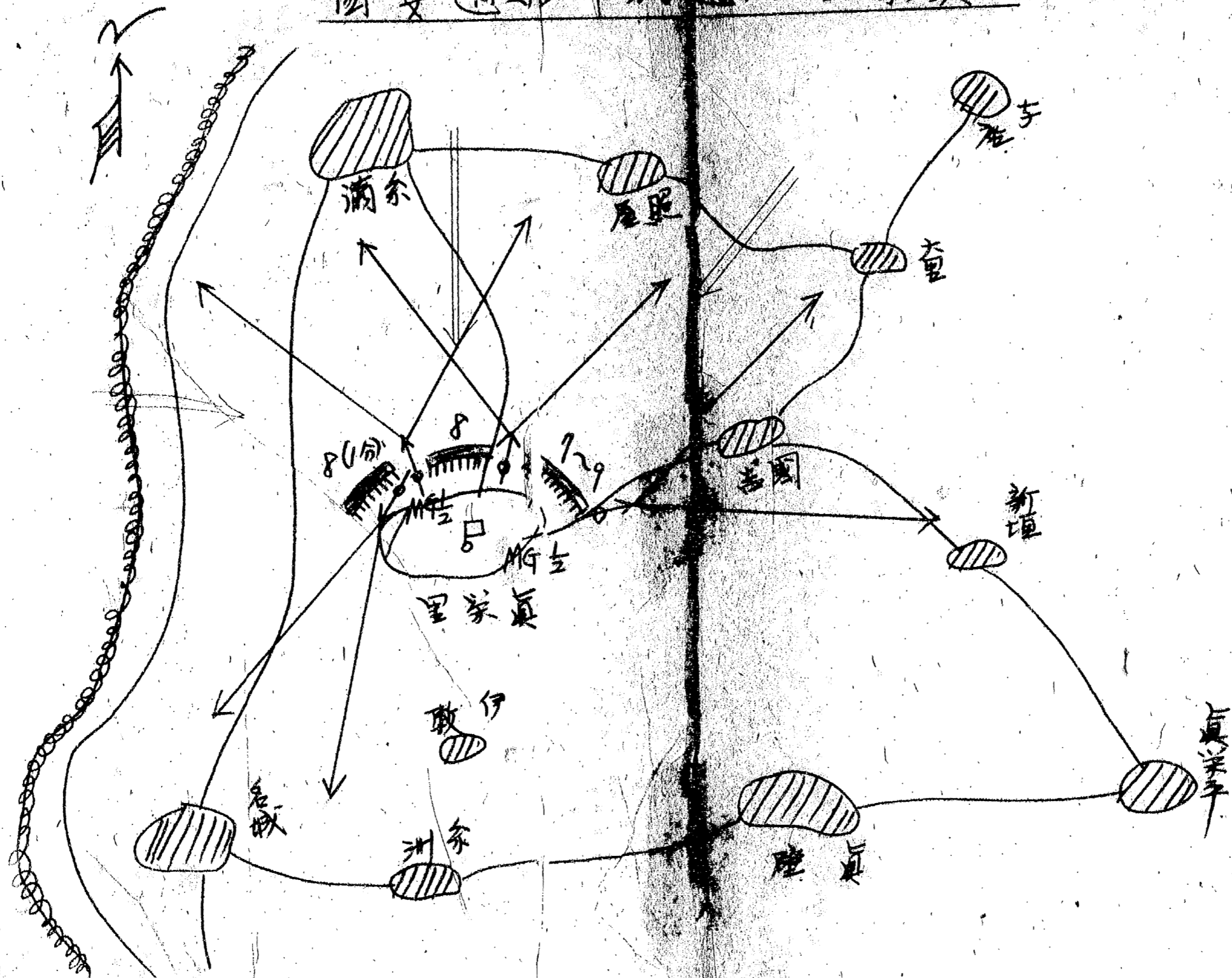
首里東新街通要圖



別紙要圖其三  
自正月二十日  
至五月三十日

3001

圖要週終斗戰北附里宗真



別紙要圖其四  
自五月三日  
至六月二日

943

五戰斗経過ノ概要其ノ五 至六月九日 要圖其ノ五 参照

1. 六月三日

独逸軍四回旅団進軍

球才七八三三部隊長ノ指揮下ニ入り具志頭北方高地ニ陣地ヲ占領シ敵ノエヒリ波河ヲ掩封ニ阻止スベキ任務ヲ受領シ陣地ヲ配備セリ要圖其ノ五参照  
具志頭ニハ球才七八三三部隊野崎隊ヨリ一ヶ中隊陣地配備ヲ完了シヤリ新城附近一帯ニハ千賀支隊陣地ヲ配備セリ

2. 六月四日

湊川附近ニアリシ友軍ハ敵ノ圧迫ヲ受ケ遂ニ具志頭方面ニ退却シテ始ム

3. 六月七日

当日頃ヨリ湊川正面及び新城南方ノ敵攻撃態勢トナリ大敵ハ勇戦奮斗スルモ我ヒニ利アリテ十七時頃敵ノ馬末攻撃ヲ受ク

3003

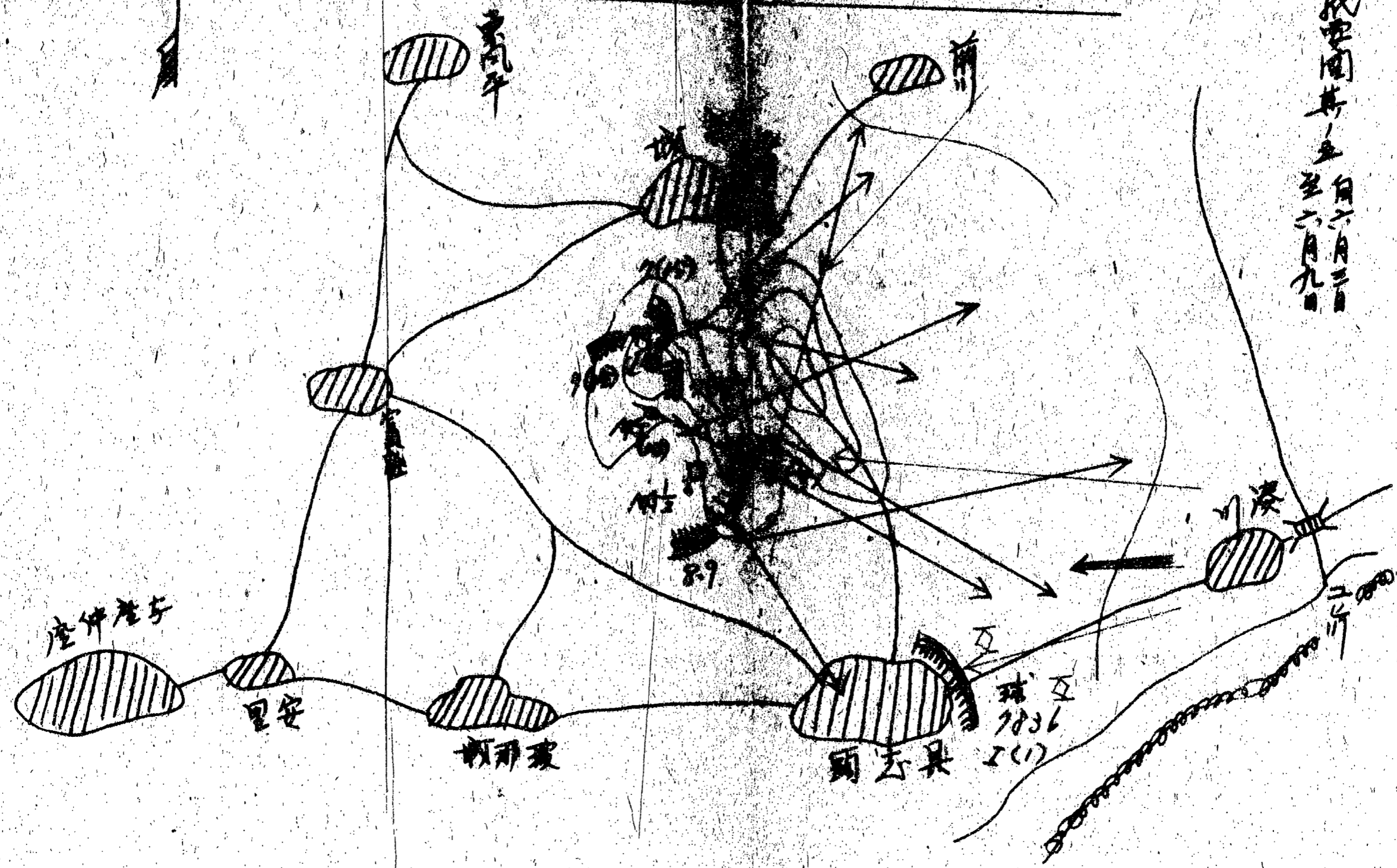
六月八日

六月九日

未明各隊ハ大隊本部場ニ集結命令ヲ受ケ集結ス  
 本集結ニ當リ茅七隊ノ山田八隊殆シト全員戦死シ  
 茅七中隊長茅三少隊長渡辺重三却中尉自傷シ中  
 隊指揮班長奥野久人曹長戦死シ茅七中隊ハ本  
 戦斗ニ當リ相当ノ戦死傷者ヲ出セリ。  
 八。頃敵ハ大隊本部場ニ前線陣ニ依リ攻撃シ来  
 り我が防面ヲ前持セリ將兵ハ非常ニ苦痛ヲ感  
 ジ壕外ニ飛出シ戦死状態ニアリ。  
 爆雷攻撃・前線陣射撃等々刻ニテ四団乃至五団  
 ヲ突進セリ一六。頃アリ敵壕外ニ。米ノ丘度ニ  
 陣地ヲ構築シ始メ各ヨリ竹三何八隊ヲ以ツテコレヲ  
 奪還シタリ。二一。頃大隊ハ仲産ニ突進ヲ命ゼラレタ  
 メ各中隊ハ三名一五名ヲ一組トシ距離五。米ノ首末  
 ヲ取り二四。頃ヲ取進テ開始ス。

3004

島尻県志頭北斗船要圖



別紙要圖其五 自六月三日至六月九日

六月十日  
既要其、六月十日  
要其、六月十日  
要其、六月十日

六月十日  
既要其、六月十日  
要其、六月十日  
要其、六月十日

第九中隊  
第八中隊長 鈴木中尉  
第九中隊長 田尻中尉 (旅団)

三機中隊  
三機中隊長 相良大尉  
三機中隊長 相良大尉

六月十一日

且支那田原方面ヨリ攻撃を敵ニ対シ要接スベク

第三大隊陣地配備要領其ノ六ノ通り配備ス

又六月十五日

敵ノ方領を中産ノ線ニ進出シ終日敵ノ噴霧

ハ乱舞シ迫襲砲又間断ナク咆哮シ敵射撃

ニ一三朝ハ中産北側ニ進出シ六九四高地附近

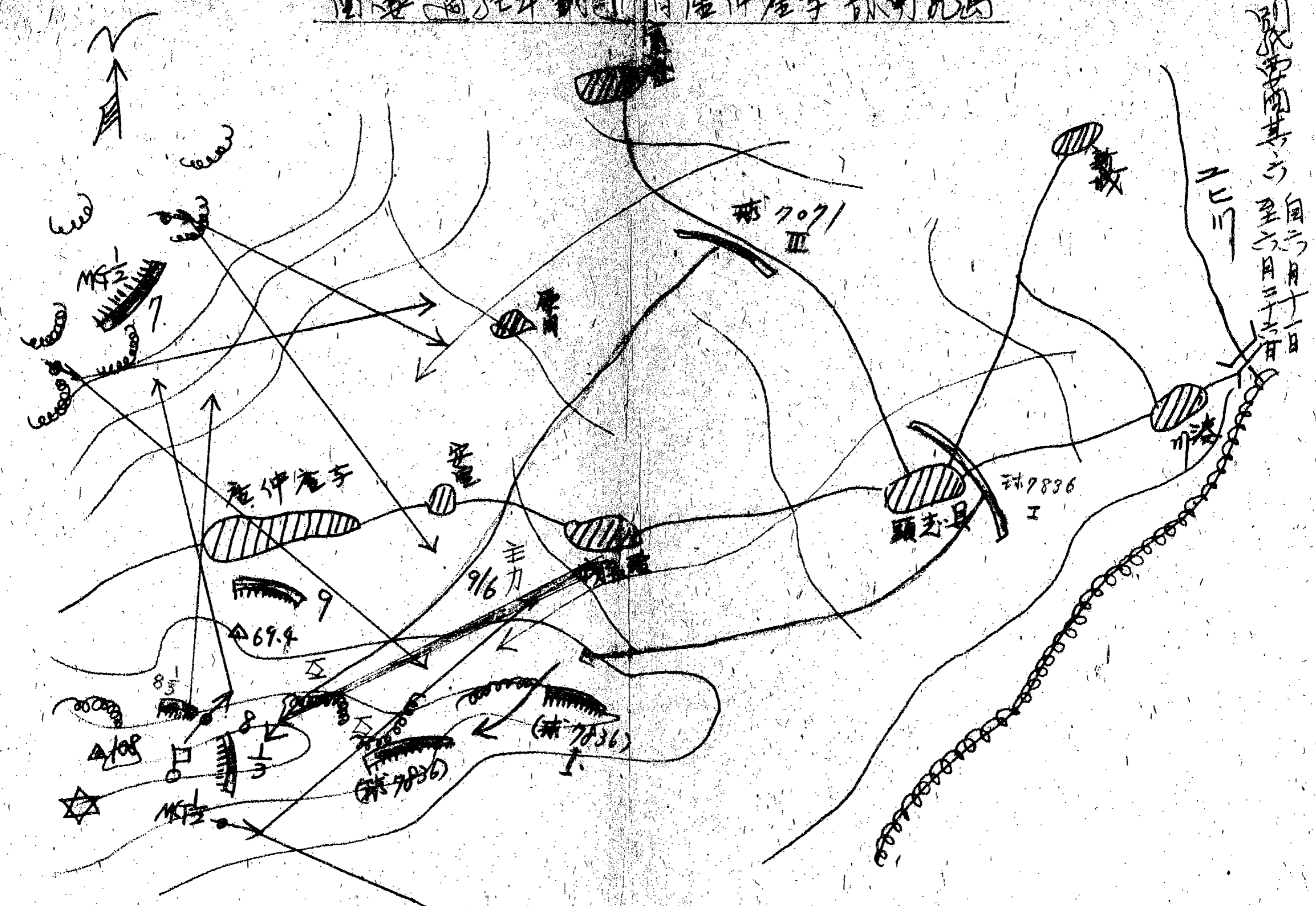
砲臺或ハ方領放射ヲ以テ猶攻シ中産アリシ第九

中隊ハ苦戦ニ陥ル情況ニアリ

3007



島南前寺庵仲庵附新山経湯圖



自三月廿二日  
至三月廿六日

5. 5月26日敵ハ強行突破ヲ美施シ遂ニ子産一仲産線ニ進出シ仲産

西側高地東側丘陵及仲産北方凹地ヲ檢護物ハ惣テ追真

砲及ミ機砲ニテ有裏ス

子産一仲産附近ヲ突破セル故ニ逐次兵力ヲ増大シ

後方ニ攻撃ヲ準備中ナリ。

6. 6月17日本朝ニ至リ敵ハ攻撃猛烈トナリ戦車、大砲放射

砲要道要地ハ各陣地ニ集中シ中隊長以下數多

戦死セル状況ナリ。

敵多ノ障害ヲ突破克服シ斬首トシテ攻撃ヲ実行

シタルヲ將正ヤ我レニ利アラズ此處ニ於テ中隊ヲ戦

斗機能ハ消滅シ必然ニ進軍戦斗ニ移行スルノ上

ナキニ至レリ。

7. 6月21日軍司令部以下數多ノ幕僚ハ自反セラル独混四

旅団解散に伴ヒ美第3大隊モ亦解散トナリ同將ニ

六月三日 中務省解隊上士  
半格的 道裏鏡 移行ス

以上

3010

P /  
44B

3011